

騎西農業育み学校

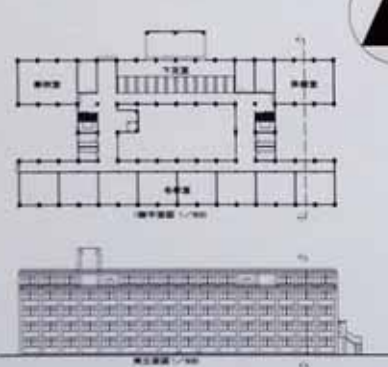
～地域農業の担い手を育むみんなの学び舎～

～コンセプト～

以前、東日本大震災後の避難場所として、埼玉県加須市の騎西地区にある旧騎西高校が、福島県飯沼町の取捨場として避難先が避難先として、避難先が避難先として利用された旧騎西高校が減少したことによって、2008年に地域の人口に比べながら閉校してしまいました。この騎西高校の周辺に加須市には豊かな田舎風景が多く広がっています。近年、市の総人口数は減少傾向にある地域であり、人口減少はますます深刻化しています。このままでは加須市の農業は衰退し、地域農業と豊かな田舎風景も失われてしまう恐れがあります。私たちは、旧騎西高校の学校としての閉校を大切にしつつ、新たな農業の担い手を育成する場へとリメイクし、地域農業の活性化を図る拠点として再生することを考えました。

～加須市と騎西地区の歴史・概要～

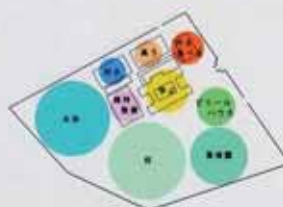
～加須市と騎西地区の歴史・概要～
騎西地区は1889年に、北埼玉郡、騎西町、河川村、下崎村が合併して、発足しました。その後、何度も合併や分割を繰り返して、2010年に、加須市、北埼玉郡、北川町、北利根町と合併し、新たに加須市となりました。加須市は面積が133.30km²、東京都心から概ね50km圏内にあり、埼玉県と東京都との間に位置し、新高橋、新木崎及び茨城県と接しています。地勢的には関東平野のほぼ中央部を流れる利根川中流地帯にあり、利根川が運んだ、土砂の堆積により形成された平坦な平地です。市内には利根川に引かれた利根川土手と堰が水を有効利用し、豊かな田舎風景が広がっています。



現在の騎西高校の状況

～なぜ若者の都会離れが進んでいるのか～

最近、「地方で暮らしたい」と思っている若者が、本県近くに多く住人が増えています。その理由として、次のようなことが挙げられます。
・農村での暮らしは、残業なしでプライベートが充実していること
・通勤ラッシュと交通費がかからないこと
・近郊で自然が豊かであること
・豊かな自然環境がもたらす癒し効果
・豊かな自然環境がもたらす癒し効果
・豊かな自然環境がもたらす癒し効果
・豊かな自然環境がもたらす癒し効果



旧騎西高校の学校としての記憶を最大限に活かし、農業を学ぶ場として活用することを目的としています。
① 古い校舎はすべて農作物の新作エリアとします。
② 第一体育館はすべて取り壊し、農機具の展示場、メンテナンステラとします。学生が農機具の整備方法を学ぶ場となります。
③ 学生ホール(食堂、倉庫部)は学生が作った農作物を販売する「学生店」や「地域の人が」、「観光客」に販売する場として活用します。
④ 第二体育館は展示場として学生が作った農作物を販売し、学生が生産者として「地域の人々」や「観光客」と交流する場となります。
⑤ 学習棟では教室を活用し、農業についての講義を行います。また、実験棟は屋内実習場として、実験や先端的な農業について学びます。
⑥ プールは災害時のための貯水の池に利用します。5階の教室を取り壊して、都市型農業の実習場として屋上菜園にします。

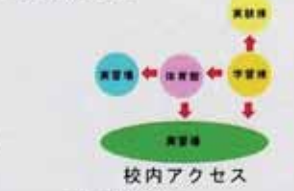
施設	施設概要	利用
6号校舎	新築2階建て校舎	講義棟
5号校舎	3階建て校舎	学生店
4号校舎	新築2階建て校舎	学生店
3号校舎	新築2階建て校舎	学生店
2号校舎	新築2階建て校舎	学生店
1号校舎	新築2階建て校舎	学生店

カリキュラム

実習場などで学ぶ内容は、加須で長年農業を営んでいる一般の農家の方に講師をしていただきます。一般の農家の方から学ぶことで、教室での学習では学べない実践的な学習をし、いかなる状況にも対応できる応用力を身に付けることができます。教室で学ぶ内容は、県立大学の先生の方に講師をしていただきます。そうすることによって、農業に関する専門的な知識や幅広い知識を得ることができ、就業後の活動にも有利になります。自分たちの活躍できる場所と見つけ出すこと、自分たちの活躍できる場所と見つけ出すこと、自分たちの活躍できる場所と見つけ出すこと、自分たちの活躍できる場所と見つけ出すこと

～加須市の農業～ 現状と将来像

加須市の農作物は、主に「卵のかがやき」という埼玉ブランド米です。他にも、小麦やとうもろこしなどを栽培し、出荷しています。近年、農産物の生産量と減少傾向にあります。2010年の総人口は50,688人から減少傾向にあり、特に40歳代以下の若年世代は減少傾向にあり、2010年には27,747人となりました。全体の半数以上を占めています。これは、加須市の若年人口の減少傾向に起因するものと見られます。加須市の農業を今後発展させるためには、若年世代への農業の魅力を高める必要があります。加須市の農業を今後発展させるためには、若年世代への農業の魅力を高める必要があります。加須市の農業を今後発展させるためには、若年世代への農業の魅力を高める必要があります。



配置の意味
学習棟で農業の理論を学び、その後、実習場へ移動し、実践的な農業について学びます。また、学生店や学生ホールでは、自分たちの作った農作物を販売し、収益の一部を農業の発展に活用します。また、学生店や学生ホールでは、自分たちの作った農作物を販売し、収益の一部を農業の発展に活用します。



加須の農業担い手塾・農業手助け隊

加須市は、農業の担い手育成を目的として、加須市において農業を志す人々を対象に「加須の農業担い手塾」を開校しました。この塾では、農業に関する基礎知識や実践的な技術を習得し、農業の担い手として活躍することを目標としています。また、「農業手助け隊」も発足し、地域内の高齢農家の作業を支援し、農業の担い手育成に貢献しています。

若者のアイデアを取り入れる

この学校は、主に農業の担い手を育成することを目的としています。新しい農業の形や地域の魅力創造も必要です。加須市や近隣の若者には、古くから発達してきた「ぼんぼん」や「いがまんじゅう」など、伝統的な農産物や加工品があります。ここで若者のアイデアを取り入れ、特産品にアレンジを加えたり新商品の開発にも挑戦し、伝統を大切にしながら新しい農業の形を見出す努力を続けたいと思います。

